

言語社会研究科 博士審査要旨

論文提出者 本合 陽
論文題目 絨毯の下絵——十九世紀アメリカ小説のホモエロティックな欲望
論文審査委員 三浦 玲一教授、折島 正司教授、井上 間従文准教授

1. 本論文の構成

序論 インターテクスチュアルな絨毯の下絵
絨毯の模様のパフォーマティヴィティ
ホモエロティックな欲望——セクシュアリティとジェンダーの問題
ホモエロティックな欲望の水脈
本書の構成

第一部 ヘンリー・ジェイムズをめぐるインターテクスチュアルな関係

第一章 ヘンリー・ジェイムズの『ポストニアンズ』
——ホモエロティックな読みの可能性
十九世紀後半の女性の問題
語り手の位置
オリーブの「センチメント」
『ベルトラフィオ』の著者』との関係

第二章 ハワード・オヴァリング・スタージスの『ティム』と『ベルチェンバー』
——アセクシュアリティと強制的異性愛の発動
「男性」の枠に収まらないスタージス
スタージスとジェイムズ
無条件の愛を求めるティム
『ベルチェンバー』に潜むアセクシュアリティ
アセクシュアリティから見えるホモエロティシズム

第三章 ヘンリー・ジェイムズの『鳩の翼』
——ケイトの愛とインターテクスチュアルな可能性
「受動的」な人物をめぐって
書き出しの不思議、結末の曖昧さ
ミリーのロマンス
「ハンサム」なケイト
換喩としての病い
ケイト／ヴェリーナの目覚め

第三章 ヘンリー・ブレイク・フラーの『バートラム・コープの年』
——『ポストニアンズ』からの出発
結婚と年齢
『バートラム・コープの年』と「欲望の三角形」
欲望の三角形とホモエロティックな視線
エロティックな三角形の可能性

第二部 十九世紀のホモエロティックなディスコース

第五章 チャールズ・ブロックデン・ブラウンの『オーモンド、あるいは秘密の目撃者』
——隠蔽と解放のドラマ
ロマンティック・フレンドシップの系譜
『オーモンド』の語り手
隠蔽の構造
ブラウンの「隠蔽」の物語
ブラウンとロマンティック・フレンドシップ

第六章 ハーマン・メルヴィルの『タイピー——ポリネシアの生活覗き見』
——ホモエロティックな視線のゆくえ
異国情緒とホモエロティシズム
エロティシズムをめぐって
独身者の視線
婚姻制度の拒否

第七章 ベイヤード・テイラーの『ジョゼフと友達』——マンリイな愛の二つの顔

ホイットマンの影響

ジョゼフの成長物語

マンリイな愛

「イノセンス」と「マンリイ」

第八章 マーク・トウェインの『ジャンヌ・ダルクの個人的な回想』

——埋葬されるホモエロティシズム

トウェイン、テイラー、ストッダード

マーク・トウェインとセクシュアリティ

語り手の「二重の特性」

『王子と乞食』の「同志の絆」を巡って

ジャンヌ・ダルクと「同志の絆」

アンドロジニーへの愛

あとがき

注

参考文献

索引

2. 本論文の概要

本論文は、十九世紀から二〇世紀のアメリカ小説に内在するホモエロティックな欲望をめぐる隠蔽と解放のドラマを読み解く試みである。それは、それら小説をインターテクスチュアルな文脈におきつつ、それら小説のなかにおけるホモエロティックな言説の運動を分析することを意味している。

十九世紀末から二〇世紀初頭に焦点を当てる本論文の企図は、近年の異性愛・同性愛の歴史研究において、この時期に、アメリカ合衆国において性に対する文化的関心が高まり、性は広く語られたことが主張されていることを踏まえている。性についての文化的関心が変容した時代において、ホモエロティックな言説はそれにどのように応答したのかが、本論文の関心である。

このような状況を前提としながら、本論文は、理論的には、ジュディス・バ

トラー、ミシェル・フーコー以降のクィア理論の進展を踏まえつつ、強制的異性愛によってつねに必然的に排除させられるものとしてのホモエロティックな欲望について考える。それは、言い換えれば、異性愛や結婚が大きな話題となる時、その横には必ず「排除させられた」欲望としてのホモエロティックな欲望が存在するということである。このような理論的文脈から、十九世紀末から二〇世紀初頭のホモエロティックな欲望の跡を辿る本論文の試みにおいて、分析の対象は厳密な意味での「ホモエロティックなもの」であり、それはゲイ・アイデンティティでもレズビアン・アイデンティティでも、レズビアン・ポリティクスでもゲイ・ポリティクスでもない。

このような理論的枠組みにおいて、小説作品におけるホモエロティックな言説の分析を行う本論文にとって重要なのは、テキストのパフォーマティヴな次元となる。異性愛あるところに遍在するものとしてのホモエロティックなものというクィア理論の枠組みを踏まえていると述べたが、それはつねに排除されながら遍在するのみであり、言い換えれば、そこにあるのは、遍在の痕跡である。このような遍在の痕跡を分析的に読解しながら、そこに「書かれていない」——「書かれていない」が「遍在している」——ホモエロティックな欲望の痕跡を、本論文は、ときに実証的な証拠も参照しながら、着実に丁寧な分析とともに読解していくことになる。テキストのパフォーマティヴな次元を分析するこのような試みが示す文学的な深みこそが、本論文の主要な魅力となるものであろう。また、ときに参照される実証的なレベルでの調査も、重要なものであり、価値が高いことを、ここで確認しておきたい。

ここまで説明してきたような本論文全体の構成、手法、内容を紹介した序論と、結論の意味もあるあとがきに加え、本論文は八章構成であり、最初の四章が二〇世紀の作品を、後の四章が十九世紀の作品を扱う。最初の四章すなわち第一部は、いくつかの小説に現れる結婚をめぐるディスコースのなかに、それら小説をインターテクスチュアルな文脈におくことで、ホモエロティックな欲望が見えてくることを、三人の小説家のテキストを分析し論じている。後の四章の第二部では、結婚をめぐるディスコースと作者に潜むホモエロティックな欲望との格闘は十九世紀を通じて存在したことを、四人の作家のテキストを扱い論じている。

より具体的には、古典であるヘンリー・ジェームズの『ポストニアンズ』（一八八六）において、二人の女性のホモエロティックな欲望がテキストの中心に

位置づけられることを論じた第一章から本論考は始まる。第二章は、当時のサロンの知識人であり、当人がアセクシュアルなライフスタイルで知られ、三作の(マイナーな)小説を残したハワード・オヴァリング・スタージスを論じた。彼の『ティム』(一八九一)と『ベルチェンバー』(一九〇四)を取りあげ、主人公がアセクシュアルであるために、当時の性をめぐるディスコースに絡め捕られていく様子を描く作品であると論じた。第三章は、スタージスのテキストとジェイムズのテキストとのインターテクスチュアルな関係を踏まえ、『ポストニアンズ』では女性同士の欲望の双方向性は描かれなかったが、『鳩の翼』(一九〇二)は、インターテクスチュアルで複雑な構造を持ち込むことで、その双方向性の可能性を隠蔽しつつ描き出すテキストであることを論じた。第四章では、そのセクシュアル・マイノリティについての作品が二〇世紀末より再評価されている作家、ヘンリー・ブレイク・フラーの『バートラム・コープの年』(一九一九)が、ジェイムズの作品とのインターテクスチュアルな関係を基に男同士のホモエロティックな欲望を描く作品であることを論じた。

第二部では十九世紀を扱う。第五章では、アメリカ文学におけるホモエロティックな欲望を描く系譜を遡りながら、アメリカ文学最初の小説家とも呼ばれるチャールズ・ブロックデン・ブラウンの『オーモンド』(一七九九)に見られる隠蔽の構造——ホモエロティックな欲望の隠蔽の構造とそこから産出され、作品構造を決定する、種々の隠蔽の構造——を読み解いた。次に第六章では、婚姻制度への疑問とホモエロティックな欲望の結びつきを、アメリカン・ルネッサンス黄金期の代表的な作家ハーマン・メルヴィルの初期作品『タイピー』(一八四六)に見た。第七章では、現在では有り体に言って忘れられているが、当時は、「桂冠詩人」と呼ばれ、人気の旅行記作家であった、ベイヤード・テイラーに着目し、ホモセクシュアルという言葉が登場した直後の一八七〇年に出版され、「アメリカで最初のゲイ小説」と呼ばれることもある『ジョゼフと友達』を扱った。ここでは、ホモエロティックな欲望を描く欲望が、時代の求める男性性に絡め捕られ、隠蔽されていく様子を論じた。第八章ではマーク・トウェインが、自身の名は出さず出版しようとした奇妙な作品『ジャンヌ・ダルクの個人的な回想』(一八九六)を扱い、それが、作者自身が自らのホモエロティックな欲望を葬り去る試みであることを示すと論じる。

ここで行われたことは、様々な作家がホモエロティックな欲望と格闘し、その格闘を通して様々な作品が生み出されるプロセスであり、そのプロセスの結

果がパフォーマンス的なテキストとして、読者の信じるディスコースや読者が信じたいと思うディスコースを生むプロセスである。「あとがき」においては、小説とはなにかについての作者の問題意識と、このようなテキスト生成の構造との関係が考察される。

3. 本論文の成果と問題点

本論文は、全体として、ホモエロティシズムからホモセクシュアリティに至る感情の主題が、十九世紀アメリカ文学の多くに見てとることのできる絵柄、「下絵」として存在するというを、多数の作家から実例を引きつつ論証した優れた論文である。そのなかで、とりわけ男性ホモエロティシズムを扱う諸章は、質が高く、客観的な事実の確認としても学的価値が高い。

更につけ加えれば、この枠組みのなかで、一方では、ヘンリー・ジェイズ、チャールズ・ブロックデン・ブラウン、ハーマン・メルヴィル、マーク・トウェインといった作家のキャノンの読解に新しい地平を付け加えたこと、他方では、ハワード・オヴァリング・スタージス、ヘンリー・ブレイク・フラワー、ベイヤー・テイラーといった（とりわけ日本では）ほぼ論じられることのない作家を紹介しつつ、その文学的価値を分析、説明したことも、本論文の重要な達成である。とりわけマイナーな作家については、その最新の研究を参照しつつ、的確で詳細な紹介がなされている点は、強調に値する。

そして、本論文はジェイズの「絨毯の下絵」にて「形式」や「テクスチュア」としてのみ示唆されるホモセクシュアルな欲望を、まさに複数の小説作品を横断する「形式」として現れる「織り物」として提示した点でも重要である。ホモエロティックな言説をパフォーマンス的なものとしながら、インターテクスチュアルに辿ることを通じて、本論文は、小説作品におけるセクシュアリティの提示について、まったく新しい読解の手法を示している面がある。それは、例えば、同時代の作品において、同じナラティブのパターンで男同士の奇妙な友情が語られるとき、それは、抑圧されつつも提示されねばならなかった、ホモエロティックな欲望がそこに示されているのだという読解である。この複雑で細密なシステムを辿りながら、本論文は、ときに無意識に、各作品の繊細な細部をじつに見事に読解していく。

十八世紀末から二〇世紀初頭のホモエロティックな系譜を辿った本研究が、

セクシュアリティの系譜についての具体的な提示と分析になっていることも忘れてはなるまい。精読によるテキストの文学性の分析をしばしば強調する本論文は、合衆国の近代化の歴史において男同士の関係が、どのように変容し、どのように隠蔽されたかについての、具体的で詳細な分析でもある。

対して、本論文の問題点としては、第一に、十九世紀におけるホモエロティックな言説の系譜を辿る第二部の議論が、網羅的と言うよりむしろ挿話的であることがあげられよう。そこで扱われる四人の作家について——各々の作家の分析は優れたものであり説得的であるが——その四人がなぜその四人でなければならないのかについての説明がなく、もちろん文学史的大作家と、ホモエロティシズムについて重要な作品の残したマイナー作家という人選にバランスはとれているが、その四人であることの必然性についての説明が残念ながら書かれておらず、そのような必然性についての考察なしにむしろ選ばれたのではないのかという印象を与える。

第二に、個々の論考においては、読解の理論的な展開を重視することより、むしろ精読を通じてテキストの細部を分析することがゴールとされている結果、ときに理論的に非常に重要な論点が提示されながら、その論点がきちんと整理されずに放置されていることがある。とりわけ、(性的な対象を持たないとされる) アセクシュアルおよび独身者という概念については、ホモエロティックな宙吊り状態をそのまま評価するユートピア的な概念として幾度か強調されるのだが、その理論的な定義や枠組みについては、いっさい説明がない。アセクシュアルと独身者の概念は、本論文の論考において極めて重要な意味を持ちうる可能性があるだけに、これは残念である。

また、文学を「パフォーマンス」な行為としながらも、作品の背後に作者の伝記的事実を見てとる傾向があるため、文学が既存とされる歴史や個人の反映として捉えられている感がある。社会的・個人的文脈と文学テキストとは当然関係をもつが、そこにはある種の緊張関係があるはずである。しかし本論文ではホモセクシュアリティやアセクシュアリティを「ありのまま」のもの、つまりは前言説的なものとして捉えてしまう箇所が散見されるため、おそらくは論文の意図に反してフーコーの言う「抑圧仮説」に接近してしまう恐れがある。この特徴は本論考の美点を支えつつ、その全体の枠組みについて慎重な議論が必要であることを示している。

4. 結論

以上のような議論すべき点はあるものの、審査結果にかんがみ、審査員一同は、一橋大学博士（学術）の学位を授与することが適当であると考えます。

最終試験結果報告

2013年10月1日

受験者 本合陽
最終試験委員 三浦玲一 折島正司 井上間従文

2013年9月29日、学位申請論文提出者 本合陽氏の論文および関連分野につき、本学学位規則第8条第1項に定めるところの最終試験を実施した。

試験においては、提出論文『絨毯の下絵——十九世紀アメリカ小説のホモエロティックな欲望』に関する疑問点および関連分野について質疑を行い、説明をもとめたのに対して、本合陽氏はいずれも適切な説明を以て答えた。

よって審査員一同は、本合陽氏が学位「博士（学術）」を授与されるに必要な研究業績および学力を有すると認定し、最終試験の合格を判定した。